

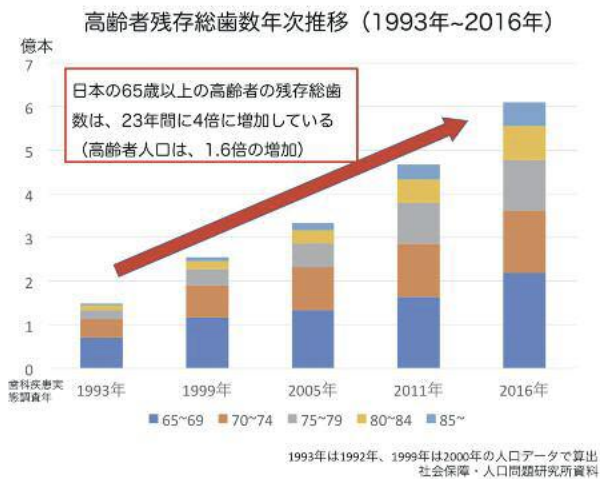
2021 年のヘルスケアミーティングに向けて

杉山精一（日本ヘルスケア歯科学会代表）

新年を迎えると同時に緊急事態宣言が発出され、初詣や新年会の開催も見合わせるという大変な事態になりました。ワクチン接種も始まりますが、今年がどのような1年になるかまったく予想ができない情勢です。皆さんは、感染対策と医院の経営に大変な気を遣いながら日々の臨床に取り組んでいることと思います。そのようななかで、コアメンバーを中心に、私たちの学会の今年の方針を協議してきました。学会をより活発にしていくために、オピニオンメンバーは、委員会、プロジェクト、フォーラムといった会の運営活動グループに所属し、メーリングリストや Zoom meeting を利用して活動していく新たな方針が決まりました。この点については、2月28日に開催するオピニオンメンバー会議で丸山和久さんから説明していただきます。オピニオンメンバーでない会員の方々も、興味のあるグループができましたら、気軽に声をかけていただければと考えています。このような活動を通じて、経験のある世代から新しい世代へとヘルスケアの理念が伝わっていくことも期待したいと思っています。

会の一番大きな事業のヘルスケアミーティングは、先行き不透明な状況から、10月10日（日）の一日のみの開催とし、会場は昨年と同じ東京両国のKFCホールに約100名程度の参加とZoomウェビナー（YouTube配信あり）を併用するハイブリッド方式で開催が決定しました。テーマは「ヘルスケアチームで取り組む 人生100年時代のリエスマネジメント」です。ICDASを取り入れたリエスマネジメント「ICCMS」について、今までにも登壇していただいている大阪大学の林美加子教授に講演いただきます。リエスリスクアセスメントについては、この分野で多数の論文を発表しているコペンハーゲン大学のSvante Twetman 名誉教授に講演いただくことが決まりました。私がTwetman先生の講演を初めて聞いたのは、2013年にソウルで開催された国際小児歯科学会（IAPD）のKeynoteLectureで「Control the biofilm stress!」という45分間の講演でした。とてもシンプルなスライドで、難しい事柄をわかりやすく解説していて、そのときの講演内容は、その後の私のプレゼンで必ず使うスライドとなりました。その後、ORCAでも短時間の講演でしたが聞く機会があり、また、リエスリスクについての論文はCRASPを作成するときに参考となる内容で、いつかは来日していただいて講演していただきたいと考えていた先生です。今回、直接メールでお願いしたところ、オンラインでの講演を快く引き受けていただくことができました。これから、Zoom meetingを活用して、事前に私たちが開発したCRASPについても理解していただき、リエスリスクアセスメントの変遷と最新の考え方について講演していただく予定ですので、どうかご期待ください。

ヘルスケアミーティングのタイトルには「人生100年時代」という言葉を入れました。これは、ともするとリエスは小児若年者の問題としてとらえられる傾向があるため、リエスマネジメントは生涯にわたる課題であるということ意識したものです。おそらく皆さんの診療室でも高齢者で多数の歯が残存している方が多く来院するようになってきていると思います。そこで具体的に日本全体の高齢者の残存歯数の変化を調べてみました。計算する根拠とした資料は、歯科疾患実態調査と社会保障・人口問題研究所の人口データです。歯科疾患実態調査から、調査年の年代別残存歯数がわかり、人口データからは年代別人口がわかりますので、これらをエクセルに入れて計算すれば、簡単に算出できます。その結果をグラフにまとめたのが、図です。



1993年から2016年までの23年間に65歳以上の高齢者人口は約1.6倍増加したのに対して、日本全体の残存歯数は、実に4倍に増加していることがわかりました。この残存歯数の増加はたいへん大きな出来事、つまり「高齢者＝多数歯欠損の時代」から「高齢者＝多数歯残存の時代」に変わったことを意味していると思います。これは、私たち歯科関係者にとってたいへん嬉しいことですが、一方、高齢者の多数の歯をどのようにマネジメントしていくかという大きな課題でもあります。多くの高齢者の口腔内には様々な年数を経たいろいろな補綴修復と欠損補綴が混在しています。日々の臨床では、これらがいろいろな問題を引き起こします。とくに、高齢まで残存している歯は、補綴修復とう蝕によって、歯冠や歯根の破折や二次う蝕が引き起こされるため、あらためて小児若年期の補綴修復を減らすことの重要性が浮きあがってきます。また、現実には、高齢者の現在ある歯をどのようにしてマネジメントしていくかも大きな課題です。このようにカリエスマネジメントは、小児若年期だけの問題ではなく生涯にわたる問題であるということ認識して、どのような取り組みをしていくかを解明できるヘルスケアミーティングにできればと考えています。